

2025年10月8日

開示事項に関する Q&A

NANO MRNA 株式会社

東証グロース 4571



“Robust foundation for
Drug Discovery Concert”



質問

回答

1 SBI証券・SBI新生企業投資との戦略的提携について、その価値と目的を教えてください。

当社は、SBI証券・SBI新生企業投資との戦略的提携により、従来のバイオベンチャーの枠を超えた革新的な事業モデルの構築を目指します。

<3つの価値>

資金力の飛躍的拡大 : SBIの豊富な資金ネットワークにより、有望な医療技術への投資を大幅に加速

投資と事業運営の統合 : 単なる投資ではなく、買収企業の価値向上から 上場まで一貫支援する

「育成型投資」を実現

ヘルスケア業界の変革 : 分散していた優れた医療技術を統合し、患者により早く・安い治療選択肢を提供

2 ヘルスケア・コングロマリットとは何ですか？
そのビジネスモデルの強みを教えてください

「ヘルスケア・コングロマリット」とは、多様なヘルスケア事業を戦略的に統合し、投資と事業運営を一体化した革新的な企業形態です。ファンドと株式を組み合わせることで企業買収をし、買収した企業の価値を高め、IPOなどにより利益を出し当社企業価値を高めるモデルです。

分かりやすい例え

SBI = 金融のコングロマリット(投資・証券・銀行・保険を統合)

ソフトバンク = AIのコングロマリット(投資・AI・通信を統合)

Nano Holdings = ヘルスケアのコングロマリット(投資・創薬・診断・医療機器を統合)

従来の投資モデルとの違い



従来のVC/製薬企業	Nano Holdings
投資のみ or 研究のみ	投資+研究+事業運営を統合
単発のプロジェクト支援	企業全体の価値向上を支援
資金提供が中心	人材・技術・ネットワークを提供
5-10年での長期回収	3-5年での効率的な価値を実現

質問	回答
3 SBI証券・SBI新生企業投資との提携選択理由とそのメリットについて教えてください	SBIグループとの提携は、単なる「資金調達パートナー」を超えた戦略的提携です。 ＜SBIを選択した5つの理由＞ ①圧倒的な資金調達力と実績：運用資産10兆円超、IPO支援年間50社以上の実績 ②ヘルスケア投資への深い理解：バイオベンチャー投資実績100社以上、創薬特有のリスクと機会を熟知 ③出口戦略のネットワーク：SBI証券による上場支援、SBIの既存ポートフォリオ企業との事業シナジー ④国際展開力：アジア・欧米での投資ネットワーク、グローバル創薬市場へのアクセス ⑤経営支援の実行力：資金提供だけでなく、経営陣派遣、事業戦略立案から実行まで伴走支援 また、ファンドの共同運営は、NANO MRNAにとって大きなメリットを持ちます。 <u>最大のメリット：</u> SBIが持つネットワークによって投資対象先企業への投資を加速化。SBIインベストメント並びにSBI新生企業投資の持つポートフォリオ企業およびSBI証券がコンタクトするIPO候補企業群を当社の投資候補先の一部として検討可能 <u>2番目のメリット：</u> 投資先企業のIPO並びに売却等、投資した時点から出口戦略をSBIと共に推進可能 <u>3番目のメリット：</u> SBIからの紹介によるファンド投資家の拡大による資金調達のレバレッジが可能

質問	回答
4 Nano Holdings株式会社に 移行する目的を教えてください。	2026年4月のホールディングス移行は、ヘルスケアコングロマリッドモデルの実現のための最適な体制を構築するためです。 ①金融事業の独立性を保つ（投資家に対するパフォーマンスの極大化） ②買収企業のマネージメント ③Exitのフレキシビリティを保つ
5 投資会社Nano Bridge Investment (NBI) を設立する 目的について教えてください。	機関投資家や事業会社などから資金を調達するためのファンド運営を目的としています。 2025年12月11日設立予定のNano Bridge Investmentは、投資家の資金を運用する専門会社として、1号 ファンド100億円規模を目標としています。 運用方針 ・ 投資規模: 1社あたり5-50億円の戦略的投資 ・ 投資期間: 3-7年での投資回収を基本方針 ・ 投資先選定基準: 技術優位性、市場ポテンシャル、経営チーム、出口戦略の明確性 ・ ハンズオン支援: 経営戦略、資金調達、事業開発、IPO準備の全面支援

質問	回答
6 投資対象となる分野は？	例) ① RNA創薬のパイプラインとプラットフォーム技術(DDS等) ② 新しいモダリティ(再生医療、ADC等) ③ インパクト(社会的意義があるUnmet) ④ AI・デジタルヘルス ⑤ 継続的に利益を生む安定収益源となる事業(診断・医療機器等) 投資戦略の特徴: ハイリスク・ハイリターン案件と安定収益案件のバランス、当社技術との親和性を重視した戦略的投資、3-7年での投資回収を基本方針としています
7 M&Aの対象候補は既にありますか？次々と見つけることは可能ですか？	既に複数の有望な候補先を特定しています。今後もSBIネットワークと当社経営陣の人脈を活用し有望な候補企業を継続して見つけてまいります。
8 成長性の目標は？	4年後の目標として、ポートフォリオ企業のIPOやM&AによるEXITを想定しており、運用資産300億円、ポートフォリオ企業10社、IPO/M&A 1~2社、時価総額500~1000億円を目指します。

質問	回答
9 株主還元について考えていますか？	将来的には、投資先企業のIPOやM&Aによる利益の一部を株主の皆さまに還元する可能性も視野に入れており、配当できるよう努めてまいります
10 NANO MNRA事業は継続しますか？	既に公表している研究開発戦略「NANO MRNA 2.0構想」に基づき、継続します。 ①治験段階にある2つのプロジェクト(TUGIおよびRUNXI)の確実な推進 ②TUGIの次相POC試験実施による製薬企業への導出確率向上 ③次世代mRNA医薬パイプラインの着実な進展と早期導出 また、ホールディングスのM&A戦略活用による親和性の高い優良企業との合併等についても検討可能となり、さらなる成長に向けた活動を推進いたします。
11 第22回新株予約権の発行について、発行価格はいくらかですか？	10月8日時点において、仮条件として121円ですが、最終的な発行条件は2025年10月15日に決定します。 <発行条件> 当初行使価額は、発行決議日(10/8)の直前取引日の終値の92%に相当する金額又は条件決定日(10/15)の直前取引日の終値の92%に相当する金額のいずれか高い額になります。

Q&A SBI証券・SBI新生企業投資への質問

質問	回答
I 1 SBIはなぜNANO MRNAを選んだのですか？	近年のバイオテックIPOの100均問題や足元の東証上場維持基準見直しを背景に、より企業価値を高めたうえでのIPOが求められています。一方でバイオセクターではレイターステージに至るほど資金調達が困難になる中、早期ライセンスアウトや小粒上場を選ばざるを得ないジレンマに陥っています。それを打開するためにはチケットサイズを伴ったクロスオーバーによる長期投資可能なリード投資家の存在が期待されています。NANO MRNA様の成長戦略における「投資機能」と「事業運営機能」を一体化したコングロマリットモデルはまさに弊社の想定する課題認識の解決に向けて方向性を一にするものでした。
I 2 SBI証券・SBI新生企業投資にとって、NANO MRNAとの提携はどのような戦略的価値がありますか？	本提携により、投資やIPO準備など、SBIグループとリレーションのある企業の課題解決や企業価値向上に向けて、ひいてはバイオセクター市場の活性化につながるものと期待しています。
I 3 NANO MRNAとの共同ファンド運営において、SBI新生企業投資が特に期待している成果は何ですか？	冒頭申しあげた通り、バイオベンチャー業界における現状の深刻な問題を解決できるファンドになり得る点です。当社もバイオベンチャーに対する投資をこれまで手掛けてきている中、NANO社という専門家集団と共同で、自らこの問題を解決できるという点に大いに期待をしています。